様式第六（第八条関係）

（記入例）

特 定 施 設 設 置 届 出 書

令和〇〇年　〇〇月　〇〇日

（宛先）長野市上下水道事業管理者

申請者　住　　所　東京都〇〇区〇〇1丁目23番地
電 話 番 号　03－〇〇〇〇－〇〇〇〇

氏名又は名称及び法人にあってはその代表者の氏名　株式会社　〇〇〇〇
代表取締役　〇〇　一郎

下水道法第12条の3第1項（下水道法第25条の10において準用する同法第12条の3第1項）の規定により、特定施設の設置について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	レストラン〇〇〇 長野店	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	長野市〇〇2丁目3番地	※受理年月日	
特定施設の種類	66の6　飲食店に設置されるちゅう房施設	※施設番号	
△特定施設の構造	別紙のとおり。	※審査結果	
△特定施設の使用の方法	別紙のとおり。		
△汚水の処理の方法	別紙のとおり。	※備　　考	
△下水の量及び水質	別紙のとおり。		
△用水及び排水の系統	別紙のとおり。		

備考
1　△印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
2　※印の欄には、記載しないこと。
3　届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

別紙1

特 定 施 設 の 構 造

施　設　名 （特定施設番号）	ちゅう房施設 （　66の6　）	（　　）	（　　）
型　式	―		
構　造 材質・形状・主要寸法	別図（ 3 ）のとおり	別図（　　）のとおり	別図（　　）のとおり
能　力	―		
設　置　数	基	基	基
新設変更の着手予定	○○年 ○○月 ○○日	年 月 日	年 月 日
完　成　予　定	○○年 ○○月 ○○日	年 月 日	年 月 日
使用開始予定	○○年 ○○月 ○○日	年 月 日	年 月 日
その他参考事項	※店舗床面積 ○○○m2 (図-3のとおり)		

※店舗床面積・　、業務の用に供する部分のすべてを含みます。(ちゅう房・客席・倉庫・トイレ・更衣室等
ただし、風除室・屋内駐車場等、飲食物を提供しない部分・　含みません。

別紙2

特 定 施 設 の 使 用 の 方 法

施　　設　　名 （特定施設番号）	ちゅう房施設 （　66の6　）	（　　）	（　　）
一日の使用時間	10時から　22時まで 連続（　時間ごと） （　12　時間／日）	時から　時まで 連続（　時間ごと） （　時間／日）	時から　時まで 連続（　時間ごと） （　時間／日）
季節的変動の概要	なし		
原材料の種類 一日あたりの使用量 及び使用方法	野菜　10kg 魚　5kg 肉　3kg		
排水・残渣等の扱い	油水分離槽①経由後、下水道No.1へ 沈殿汚泥・　廃棄物として業者回収		
その他参考事項	残渣の回収業者 「㈱□□□サービス」 TEL026－○○○－○○○○		

別紙3

（記入例）

汚 水 の 処 理 の 方 法

汚水処理施設名 （汚水処理施設番号）		油水分離槽 （ 1 ）	（ ）	（ ）
着手予定		○○年○○月○○日	年 月 日	年 月 日
完成予定		○○年○○月○○日	年 月 日	年 月 日
使用開始予定		○○年○○月○○日	年 月 日	年 月 日
汚水処理施設の概要	汚水処理の方法	自然沈殿分離式		
	種類・型式	□□社製 3槽式 G-400型		
	能力	容量 400L （実容量 398L）		
	汚水処理施設の構造	別図（ 8 ）のとおり	別図（ ）のとおり	別図（ ）のとおり
汚水処理施設の使用時間		10 時から 22 時まで 連続（ 時間ごと） （ 12 時間／日）	時から 時まで 連続（ 時間ごと） （ 時間／日）	時から 時まで 連続（ 時間ごと） （ 時間／日）
季節的変動の概要		なし		
汚水等の処理に要する消耗資材の1日あたりの用途別使用量		なし		
残渣の量及びその処理方法		汚泥○○kg/月 産業廃棄物処理委託		
排除場所		下水道No.1		
その他参考事項		残渣の回収業者 「㈱□□□サービス」 026-○○○-○○○○		

別紙4

（記入例）

下 水 の 量 及 び 水 質

排水口番号			下水道№1				（参考）
下水排除量（m^3/日）			平均	最大	平均	最大	下水排除
項　　目		（単位）	8.3	10.7			基　準
温度		（℃）					45
水素イオン濃度（pH）			7.2	7.4			5～9
生物化学的酸素要求量（BOD）		（mg/l）	120	150			600
浮遊物質量（SS）		（mg/l）	30	50			600
nーヘキサン抽出物質	鉱油類	（mg/l）					5
	動植物油脂類	（mg/l）	15	20			30
よう素消費量		（mg/l）					220
フェノール類		（mg/l）					5
銅		（mg/l）					3
亜鉛		（mg/l）					5
溶解性鉄		（mg/l）					10
溶解性マンガン		（mg/l）					10
クロム		（mg/l）					2
カドミウム		（mg/l）					0.05
シアン		（mg/l）					0.5
鉛		（mg/l）					0.1
有機りん		（mg/l）					1
六価クロム		（mg/l）					0.3
ひ素		（mg/l）					0.1
総水銀		（mg/l）					0.003
アルキル水銀		（mg/l）					不検出
ポリ塩化ビフェニル（PCB）		（mg/l）					0.003
トリクロロエチレン		（mg/l）					0.3
テトラクロロエチレン		（mg/l）					0.1
ジクロロメタン		（mg/l）					0.2
四塩化炭素		（mg/l）					0.02
1,2-ジクロロエタン		（mg/l）					0.04
1,1-ジクロロエチレン		（mg/l）					0.2
シス-1,2-ジクロロエチレン		（mg/l）					0.4
1,1,1-トリクロロエタン		（mg/l）					3
1,1,2-トリクロロエタン		（mg/l）					0.06
1,3-ジクロロプロペン		（mg/l）					0.02
チウラム		（mg/l）					0.06
シマジン		（mg/l）					0.03
チオベンカルブ		（mg/l）					0.2
ベンゼン		（mg/l）					0.1
セレン		（mg/l）					0.1
ほう素		（mg/l）					10
ふっ素		（mg/l）					8
アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素		（mg/l）					380
ダイオキシン類		（pg-TEQ/l）					10
摘　要							

別紙5

（記入例）

用 途 別 用 水 使 用 量

用 途 区 分	平 均 用 水 量 (m^3/日)	最 大 用 水 量 (m^3/日)	水 源 種 別
厨房	7.0	8.5	上水道
トイレ、手洗い	1.0	1.5	上水道
その他	0.3	0.7	上水道
計	8.3	10.7	

備考

用途区分は、工場等の特定施設ごと及び一般工場水、事務所系用水等に区分すること。

添付書類

(1) 工場又は事業場の付近の見取図

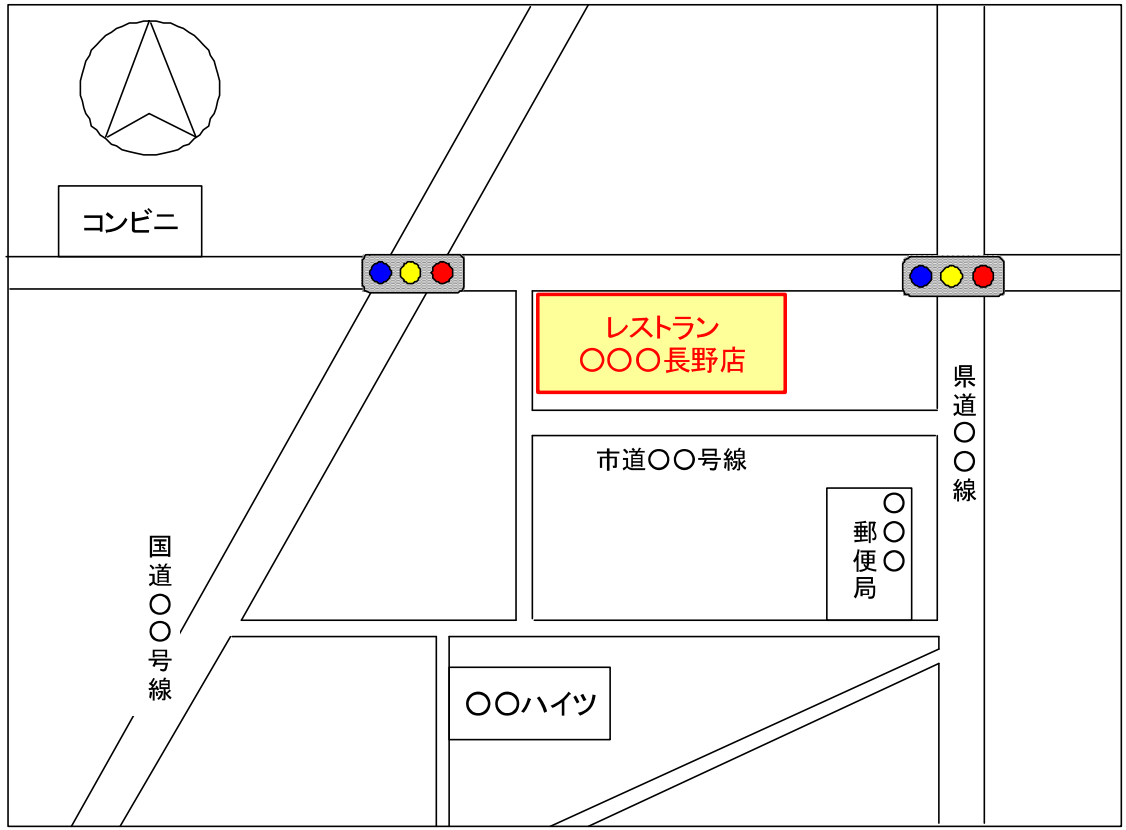
(2) 工場又は事業場の建物・特定施設及び特定施設に関連する主要設備等の配置図（この配置図には、上水の給水経路を青で、井水の給水経路を緑で、下水道へ排除する排水経路を赤で、公共用水域へ排出する排水経路を橙色で記入すること）

(3) 特定施設の構造概要図（主要寸法記載のこと。カタログでも可。）

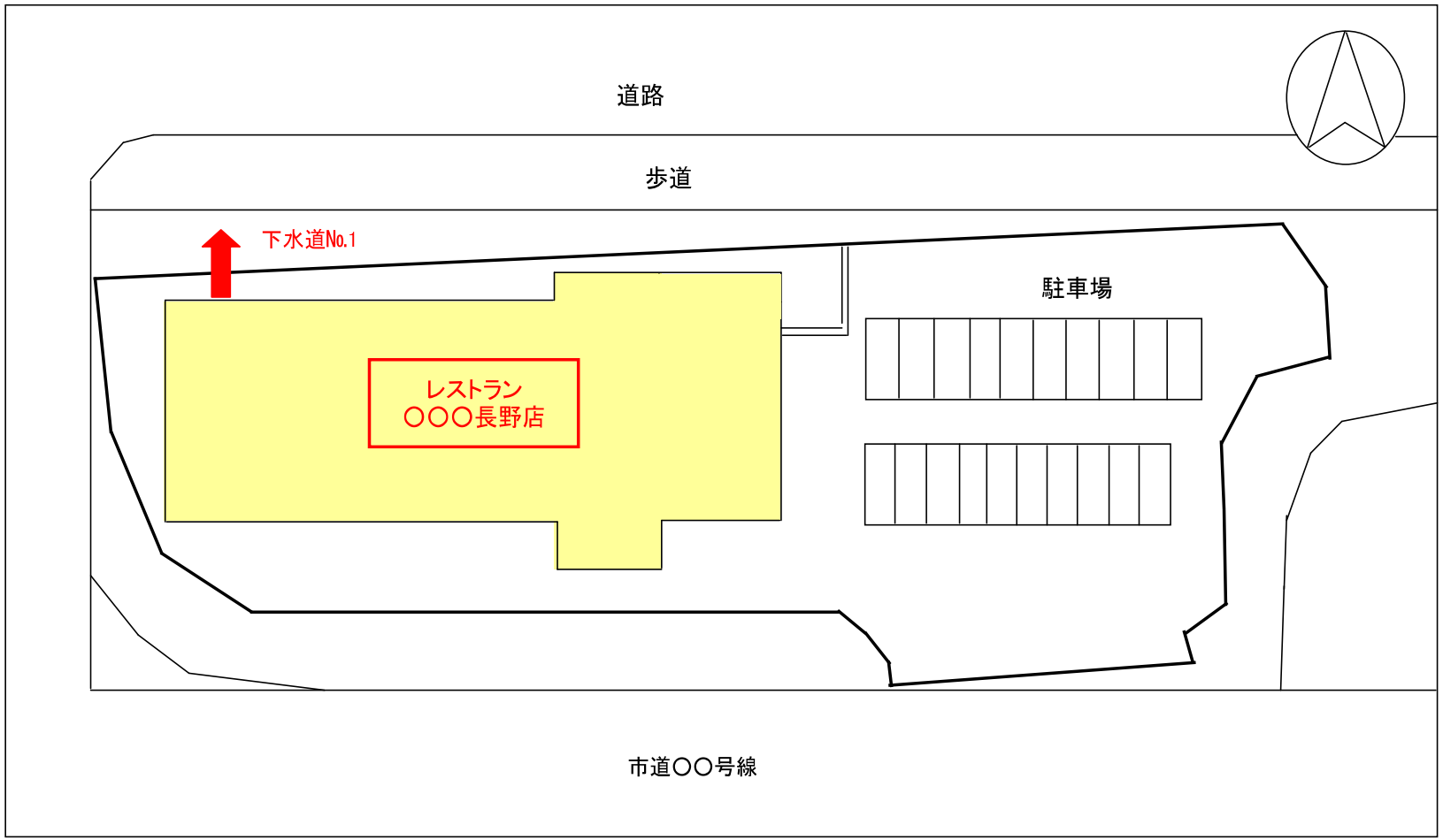
(4) 汚水等の排出又は発生及び汚水の処理に係る操業の系統の概要説明図

(5) 汚水等の処理施設の構造概要図（主要寸法記載のこと。カタログでも可。）

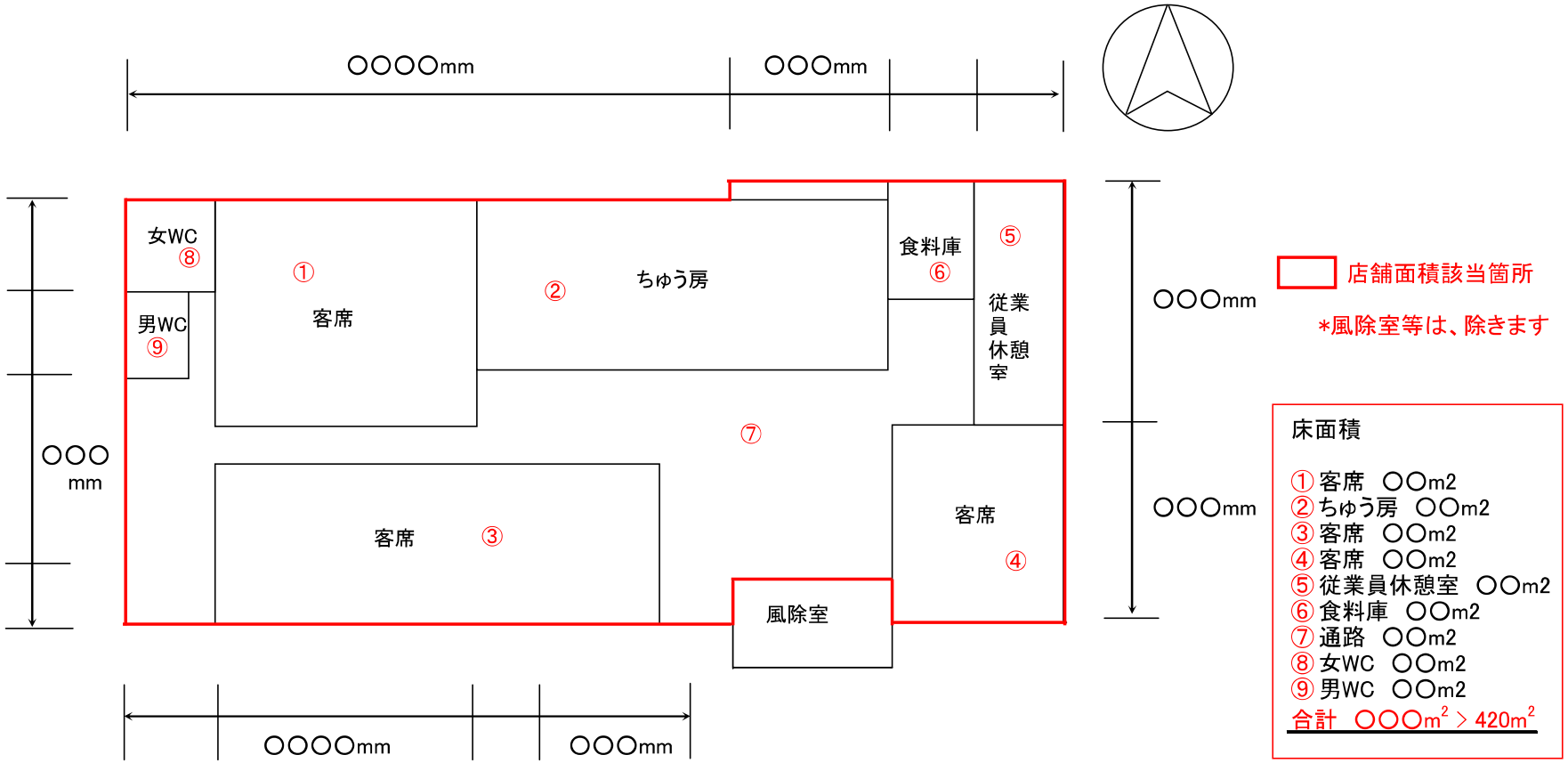
図－1　付近の見取り図　（記入例）



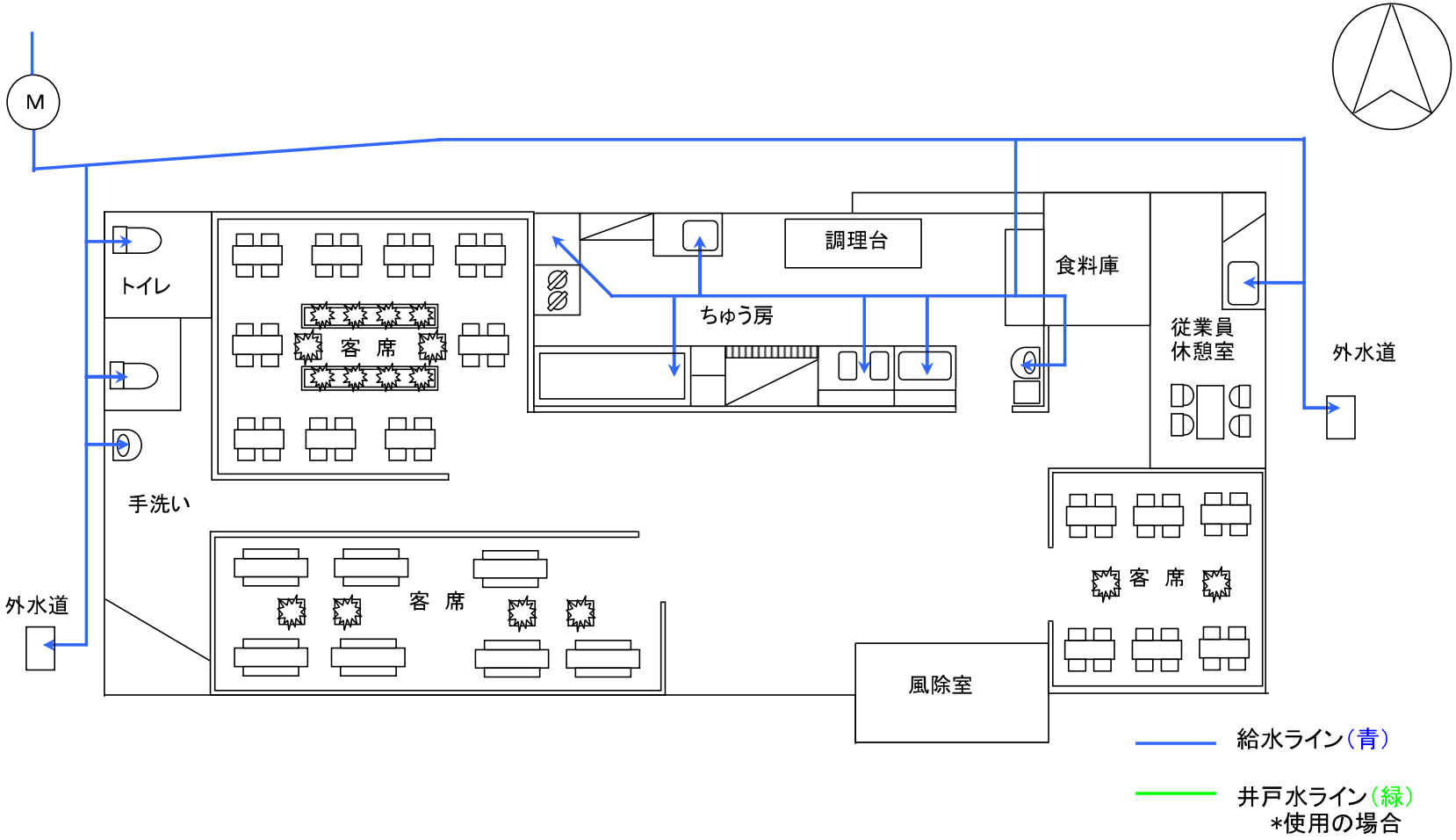
図－2　建物の配置図　（記入例）



図－3　面積表 （記入例）


〇〇〇〇mm
〇〇〇mm
女WC
⑧
男WC
⑨
①
客席
②
ちゅう房
食料庫
⑥
⑤
従業員休憩室
⑦
客席
③
客席
④
風除室
〇〇〇mm
〇〇〇mm
〇〇〇
mm
〇〇〇〇mm
〇〇〇mm
店舗面積該当箇所
*風除室等は、除きます
床面積
① 客席　〇〇m2
② ちゅう房　〇〇m2
③ 客席　〇〇m2
④ 客席　〇〇m2
⑤ 従業員休憩室　〇〇m2
⑥ 食料庫　〇〇m2
⑦ 通路　〇〇m2
⑧ 女WC　〇〇m2
⑨ 男WC　〇〇m2
合計　〇〇〇m² ＞ 420m²

図－4 給水管図 （記入例）


M
トイレ
客 席
調理台
ちゅう房
食料庫
従業員
休憩室
外水道
手洗い
外水道
客 席
客 席
風除室
給水ライン（青）
井戸水ライン（緑）
*使用の場合

図－5 排水管図 （記入例）

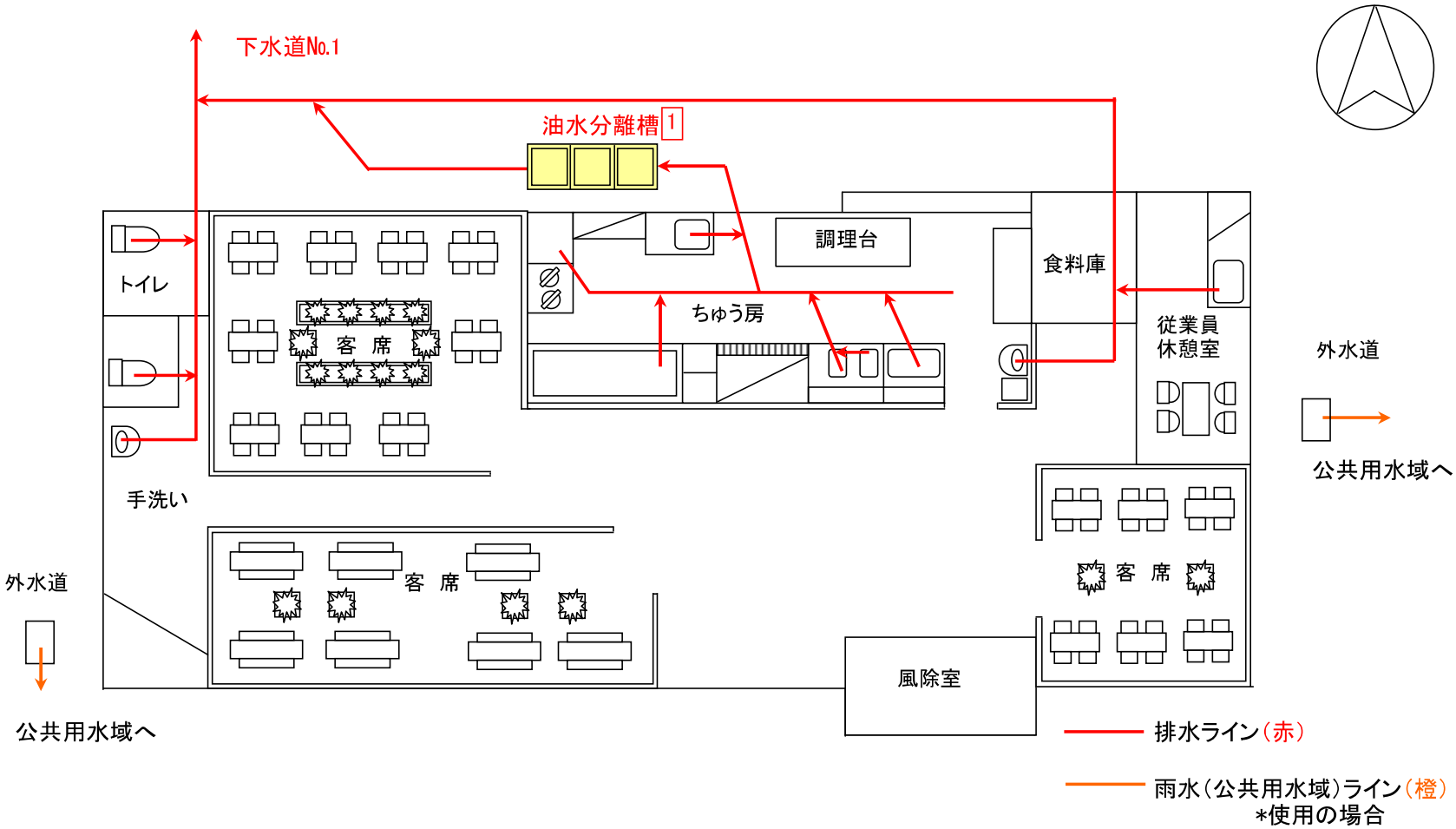

下水道No.1
油水分離槽 1
トイレ
客 席
調理台
ちゅう房
食料庫
従業員
休憩室
外水道
公共用水域へ
手洗い
外水道
客 席
客 席
風除室
公共用水域へ
排水ライン（赤）
雨水（公共用水域）ライン（橙）
*使用の場合

図-6　操業系統図（記入例）

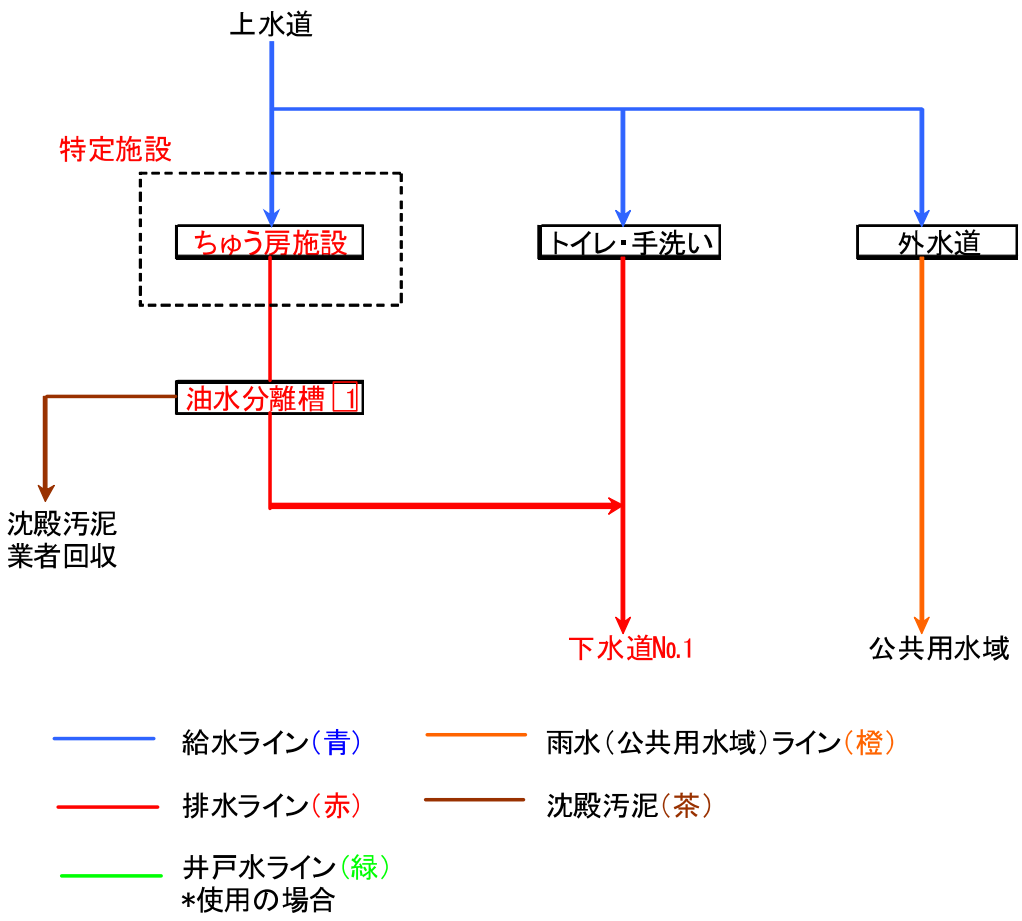

上水道
特定施設
ちゅう房施設
トイレ・手洗い
外水道
油水分離槽 1
沈殿汚泥
業者回収
下水道No.1
公共用水域
給水ライン（青）
雨水（公共用水域）ライン（橙）
排水ライン（赤）
沈殿汚泥（茶）
井戸水ライン（緑）
*使用の場合

図-7　汚水処理系統図 （記入例）

特定施設
ちゅう房施設

	平　均	最　大
水　　量	7.0 m^3/日	8.5 m^3/日
pH	7.2	7.4
BOD	750	890
SS	520	630
n-ヘキサン抽出物質（動植物油脂類）	240	310

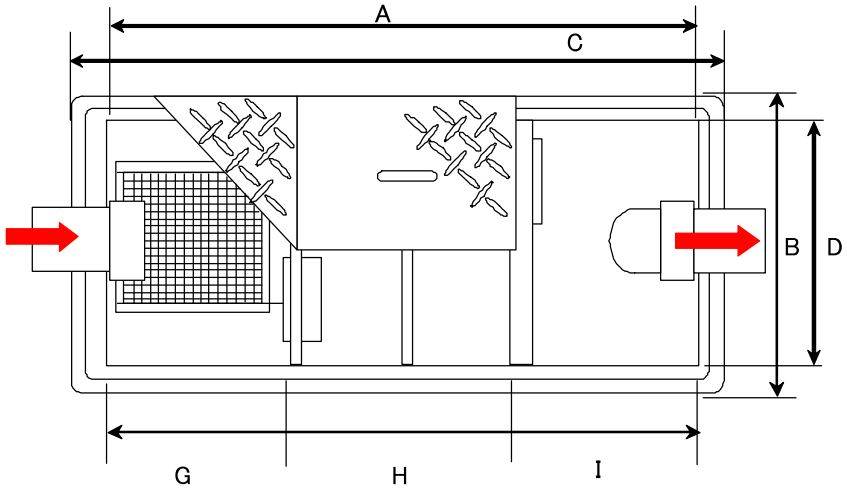
油水分離槽 1

	平　均	最　大
水　　量	7.0 m^3/日	8.5 m^3/日
pH	7.2	7.4
BOD	120	150
SS	30	50
n-ヘキサン抽出物質（動植物油脂類）	15	20

下水道No.1

排水ライン（赤）

図-8 油水分離槽の構造図 （記入例）

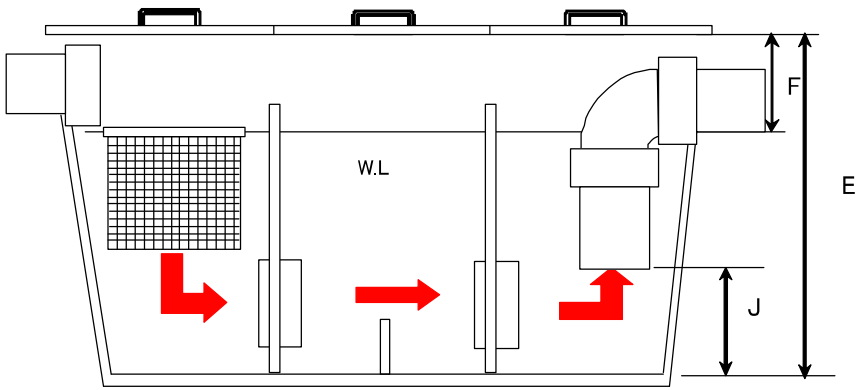


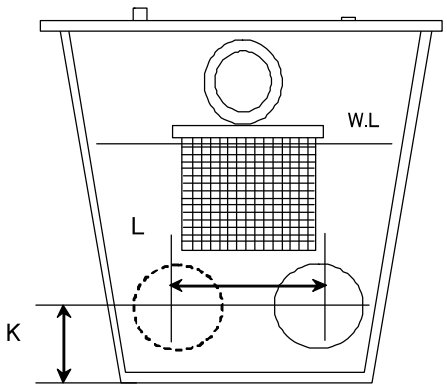
油水分離槽 1

□□社製
3槽式 G-400型　　必ず寸法を明記してください。

型式	実容量 (L)	許容流入量 (L/min)	標準グリス阻集量 (kg)
G-50	48	36.0	11.3
G-100	98	67.5	21.2
G-150	148	115.5	36.3
G-200	198	159.7	50.3
G-250	248	187.5	59.0
G-300	298	226.5	71.3
G-350	348	266.2	83.8
G-400	398	292.5	92.1
G-450	448	330	103.9
G-500	498	373.5	117.6

型式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	有効水量
G-400	1400mm	710mm	1300mm	610mm	800mm	220mm	520mm	390mm	390mm	150mm	150mm	300mm	398L





9 油水分離槽選定計算書（記入例）

*工場製造の阻集器の選定の場合

空気調和・衛生工学会規格
SHASEによる計算例
＊決まった書式等はありません

業種：洋食

A	：	ちゅう房延床面積（ちゅう房、客席）	318.79	m^2
t	：	ちゅう房使用時間	720	分
G_u	：	阻集グリース質量/1日	8.5	g
k	：	危険率を定めた時の流量に対する倍数	3.5	
n	：	回転数/1日1席あたり	5	人
n_0	：	補正回転数/1日あたり	2.9	
G_b	：	たい積残さの質量/1日1m^2あたり	3.5	g
i_u	：	グリース掃除周期	7	日
i_b	：	たい積残さの掃除周期	28	日
W_m	：	使用水量/1日1m^2あたり	95	L
C_2	：	定数	10^{-3}	

1. 阻集グリース層の容量　　$Gu = A \times gu \times n / n_0 \times iu \times C_2$

Gu = $318.79 \times 8.5 \times 5/2.9 \times 7 \times 10^{-3} = 32.7$ kg

2. 流入水量　　$Q = A \times Wm \times n / n0 \times 1/720 \times k$

Q ＝ $318.79 \times 95 \times 5/2.9 \times 1/720 \times 3.5 = 253.8$ L

3. たい積残さ層の容量　　$G_b = A \times Gb \times n / n_0 \times ib \times C_2$

G_b ＝ $318.79 \times 3.5 \times 5/2.9 \times 28 \times 10^{-3} = 53.9$ kg

今回設置する油水分離槽は、G-400（図-8）

許容流入量は、　292.5 L

グリス阻集量は、　92.1 kg

上記の計算結果と比較すると、

流入流量は、　253.82 L ＜ 292.5 L

グリス阻集量は、　32.7 ＋ 53.9 ＝ 86.6 ＜ 92.1 kg

したがって、今回設置の油水分離槽（G-400)は、処理能力を満たしています。